

## 症例・処方解析学

責任者・コーディネーター	分子細胞薬理学分野 弘瀬 雅教 教授、薬剤治療学分野 三部 篤 教授		
担当講座・学科(分野)	薬剤治療学分野、情報薬科学分野、分子細胞薬理学分野、臨床薬剤学分野、臨床医化学分野、医学教育学講座医学教育学分野		
対象学年	4	区分・時間数	講義 22.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

基本理念：薬物療法が有効かつ安全に行われるために薬剤師の果たす役割は大きく、医薬品の適正使用及びセーフティマネジメントの実践が欠かせない。また、薬剤師として求められる基本的資質10項目の中には「薬物療法における実践的能力」を身につける事が示されている。この「薬物療法における実践的能力」では、薬物治療を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力が求められていて、医師の処方箋に基づき正確に調剤するだけでなく、その処方そのものの評価や、薬物療法の効果や副作用を薬剤師自身が評価して、個々の患者さんに合った安全で有効な治療を積極的に提案する能力が求められている。本講義では、薬物療法を科学的・客観的に評価するための基礎力としての「症例解析能力」を、薬学教育の実務実習において習得が必須となっている8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）を通して身につける事を目的とする。また、症例把握のために必要な臨床検査値、画像診断、理学所見についても学ぶことにより、臨床力を高める。

### ・教育成果（アウトカム）

処方箋、臨床検査値や画像診断、理学所見などから症例の問題点（症例の病態や、医薬品の効果及び副作用など）を適切に評価し、最適の処方を立案できる。（ディプロマ・ポリシー：2, 4, 7, 8）

### ・到達目標（SBO）

1. 症例の臨床検査値の異常を指摘・説明できる。☆
  2. 症例の画像診断の異常を指摘・説明できる。☆
  3. 症例の理学所見の異常を指摘・説明できる。☆
  4. 医薬品の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
  5. 症例及び処方例の問題点を適切に指摘できる。
  6. 症例及び処方例の問題点及びその解決策について、自らの意見を発表できる。☆
- 症例：がん、循環器疾患 内分泌・代謝系疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、消化器疾患、感染症疾患

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/10	火	2	分子細胞薬理学分野 分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授 丹治(斉藤) 麻希 助教	症例処方解析の基礎 1 臨床検査総論 1. 症例の臨床検査値の異常を指摘・説明できる。
4/17	火	2	分子細胞薬理学分野 分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授 丹治(斉藤) 麻希 助教	症例処方解析の基礎 2 臨床検査各論 1. 症例の臨床検査値の異常を指摘・説明できる。
4/24	火	2	分子細胞薬理学分野 分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授 丹治(斉藤) 麻希 助教	症例処方解析の基礎 3 画像診断総論・各論 1. 症例の画像診断検査結果の異常を指摘・説明できる。
5/8	火	2	分子細胞薬理学分野 医学教育学講座 医学教育学分野	弘瀬 雅教 教授 相澤 純 特任講師	症例処方解析の基礎 4 フィジカルアセスメント 1 1. 症例の理学所見の異常を指摘・説明できる。
5/9	水	2	分子細胞薬理学分野 分子細胞薬理学分野	弘瀬 雅教 教授 丹治(斉藤) 麻希 助教	症例処方解析の基礎 5 フィジカルアセスメント 2 1. 症例の理学所見の異常を指摘・説明できる。
5/15	火	2	臨床医化学分野 分子細胞薬理学分野	那谷 耕司 教授 弘瀬 雅教 教授	症例処方解析の基礎 6 フィジカルアセスメント 3 1. 症例の理学所見の異常を指摘・説明できる。
5/22	火	2	薬剤治療学分野 薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	症例処方解析実践 1 循環器疾患 1 1. 高血圧・不整脈 循環器疾患治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
5/29	火	2	薬剤治療学分野 薬剤治療学分野 分子細胞薬理学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教 弘瀬 雅教 教授	症例処方解析実践 2 循環器疾患 2 心不全・虚血性心疾患 1. 循環器疾患治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
6/5	火	2	薬剤治療学分野 薬剤治療学分野 分子細胞薬理学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教 弘瀬 雅教 教授	症例処方解析実践 3 内分泌・代謝系疾患 糖尿病他 1. 内分泌・代謝疾患治療薬の効果及び

					副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
6/12	火	2	薬剤治療学分野 薬剤治療学分野 分子細胞薬理学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教 弘瀬 雅教 教授	症例処方解析実践4 脳・神経疾患（脳血管障害・精神神経疾患） 1. 脳・神経疾患治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
6/19	火	2	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	症例処方解析実践5 感染症 1. 感染症治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
6/25	月	2	薬剤治療学分野 薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	症例処方解析実践6 免疫・アレルギー疾患 1. 免疫・アレルギー疾患治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
6/26	火	2	薬剤治療学分野 薬剤治療学分野 分子細胞薬理学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教 弘瀬 雅教 教授	症例処方解析実践7 消化器疾患 1. 消化器疾患治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
7/2	月	2	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	症例処方解析実践8 がん1 1. 抗悪性腫瘍治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。
7/3	火	2	臨床薬剤学分野 臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授 千葉 健史 助教	症例処方解析実践9 がん2 1. 抗悪性腫瘍治療薬の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	病気がみえる vol.1 消化器 第5版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2013
教	病気がみえる vol.2 循環器 第4版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017

教	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第4版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2014
教	病気がみえる vol.4 呼吸器 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2013
教	病気がみえる vol.5 血液 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017
教	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2009
教	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017
教	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2014
教	病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第3版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2013
教	病気がみえる vol.10 産科 第3版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2013
教	薬がみえる vol.1 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2014
教	薬がみえる vol.2 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2015
教	薬がみえる vol.3 第1版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2016

・成績評価方法

定期試験(100%)の結果で評価する。

・特記事項・その他

予習としては、教科書の授業内容の項目を読んでおくこと。復習としては、授業での配付資料を用いてまとめること。さらに、演習で行った問題をよく調べ、理解すること。  
 授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。  
 授業出欠カードには自由記載欄があり、教員への質問や要望を伝えることができる。質問の解答は、質問を受けた次の週の講義終了後に対応する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	コンピューター	1	講義スライドの映写